

令和 3年度 行政評価事業別シート

実計対象		■	評価対象	■	新規	□	完了事業	□	ゼロ予算事業	□	担当者	村石 孝子
全体計画		平成26年度		～	平成28年度		経費区分	実施計画事業費		内線	3522	
事務事業名		4227 蔵の町並みキャンパス運営助成事業										
所 属		200200 まちづくり推進部・まちづくり課										
施 策		17023900 特色をいかした地域振興の推進										
予算 科目	会計	01 一般会計										
	科目	080401 土木費・都市計画費・都市計画総務費										
	事業	040000 蔵の町並みキャンパス運営助成事業										
事業目的						事業概要・効果						
歴史と文化の遺産である蔵造り等の建物を活用し、キャンパスとして学生が研究・交流する中で、21世紀を担う知の創出と情報発信を行う。また、新たな研究・教育機能を持った都市づくりを産・学・官・民の協働により行う。						歴史と文化の集積である蔵造の建物等を学生の研究や授業の場として活用し、その成果を発信し、文化・産業遺産として次世代へ継承するとともに、産・学・官・民の協働による新たな研究機能をもったまちづくりを行う。						

PLAN-DO

年度実績及び予定

令和 2年度 実績	令和 3年度 予定
4校5学部（学科） 300人（コロナ禍の影響による）	7校9学部（学科） 420人（コロナの状況により変更あり）
令和 4年度 予定	令和 5年度 予定
7校9学部（学科）1000人	7校9学部（学科）1000人
令和 6年度 予定	令和 7年度 予定
7校9学部（学科）1000人	7校9学部（学科）1000人

指標名	蔵の町並みキャンパス年間延べ参加者数					
算式	年間延べ参加者数					単位 人
年度		令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度
目標値	目標	420	1,000	1,000	1,000	1,000
	実績					
指標選定の理由	須坂市の歴史的資産、資源を活用した蔵の町並みキャンパスにより、地域振興を図るため。					
最終年度目標の根拠	参加大学の学生数（過去の実績を基に算定）					
指標名						
算式						単位
年度		令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						
指標名						
算式						単位
年度		令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						

事業費

(単位：千円)

		令和 2年度 決 算	令和 3年度 予 算
事業費		310	900
特 定 財 源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	0	0
	地方債	0	0
	その他	0	0
一般財源		310	900
人員数 (人)	正規職員	0.4	0.3
	嘱託職員	0.5	0.2
	臨時職員	0.0	0.0
人 員 コスト	正規職員	2,787.2	2,090.4
	嘱託職員	1,574.5	629.8
	臨時職員	0.0	0.0
	計	4,361.7	2,720.2
市民一人当たりの経費		0.1	0.1
総額		4,671.7	3,620.2

(単位：千円)

令和 2年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
7節 報償費	0	
10節 需用費	0	
12節 委託費	0	
14節 工事請負費	0	
18節 負担金補助及び交付金	310	蔵の町並みキャンパス事業負担金310
その他	0	

(単位：千円)

令和 3年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
7節 報償費	0	
10節 需用費	0	
12節 委託費	0	
14節 工事請負費	0	
18節 負担金補助及び交付金	900	蔵の町並みキャンパス事業負担金900
その他	0	

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	・市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか ・行政内部の管理運営上必要な事業であるか ・市が主体となり実施すべき事業か ・法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか ・目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか	普通
評価コメント	蔵の町並みキャンパス推進協議会が主体となり、産・学・官の協働により実施している。	
有効性	・事業の成果は上がっているか ・目標に対する達成度は十分か ・市民生活上の課題解決に貢献しているか ・行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか ・事業の目的が達成できるような事業内容になっているか	有効
評価コメント	歴史と文化の集積である蔵造りの建物等を活用し、市内を大学等のキャンパスとして、学生の研究・交流が図られている。	
効率性	・成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか ・効率性向上に努めているか ・使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか	変わらない
評価コメント	負担金は、活動にかかった費用について市の予算内で負担する事となっている。	

振り返り（決算年度の取組み課題）

コロナウイルス感染症の影響で、来訪者は例年の3割程度となったが、ICTを活用した取り組みも行われた。今後コロナ禍でも、できる取り組みを大学と検討していきたい。

ACTION**1次評価**

次年度以降の方向性	簡易な改善（拡大）
総合評価コメント	
コロナ禍によりキャンパスは縮小、成果発表は中止となるなど計画をしていた取組みができなかった。今後は開催方法などを研究し引続き各大学の特色がいかされるよう支援をする。	

2次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
2次評価コメント	
新型コロナウイルス感染症の影響で大学の取組みが制限されたが、産学官民の協働の取組みとして継続して行なっていくことが必要。	

外部評価

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	